

○北名古屋市（単年度モデル）

1 北名古屋市の特徴

- 医師会が2市1町にまたがっている。
- 市民病院はなく、市内の民間病院（済衆館病院など）が中核的病院の役割を担っている。

2 モデル事業の対象地域

北名古屋市全域（人口83,290人 高齢化率22.6%）

3 平成26年度の主な取組状況等

分野	項目	実績	成果・課題	分野	項目	実績	成果・課題
関係機関のネットワーク化	関係機関連絡会議（地域包括ケアシステムを構築していく上で必要な対策や地域課題等の解決に向けた対策の検討）	○北名古屋市地域包括ケアシステム関係機関連絡会議 【開催数】：2回 （他、3月中に1回） 【構成員】：医師会、歯科医師会、薬剤師会、在宅療養後方支援病院、保健所、社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ、ケアマネ、介護サービス事業所、訪問看護ステーション	○ 関係機関連絡会議が、多職種の意見交換の場として定着し、各職種の代表者がそれぞれの立場から在宅医療の課題について検討し、今後の方向性を定めることができた。特に、意見交換を通じて、目的の一つである顔の見える関係を構築できた。	医療と介護の連携	在宅医療等の普及啓発	○地域包括ケアモデル事業における在宅医療研修会（講演会） 【参加者数】189名 【内容】 国立長寿医療研究センター在宅連携医療部部長三浦久幸氏による講演、ミニシンポジウムなど ○住民啓発用資料講演会にて、パンフレット等を希望者に配布	○ ミニシンポジウムでは、在宅で看取った家族や、訪問看護ステーション等の支援する側の経験談をわかりやすく話していただき、参加者へ内容がうまく伝わった。 ○ リーフレットは市販のものを利用したが、今後は具体的な相談窓口等地域の情報を盛り込んだものを訪問看護ステーション等関係機関とともに作成していく。
	社会資源等の把握（各種アンケートの実施、資源マップ（リスト）の作成等）	○北名古屋市介護保険事業計画・高齢者福祉計画アンケートを実施	○ アンケート調査を実施し、在宅医療への関心度や周知度等の住民のニーズを把握することができた。				
医療と介護の連携	在宅医療連携協議会（多職種連携の課題の抽出と解決策の検討）	○在宅医療連携協議会 【開催数】：3回（3月中に1回） 【構成員】医師会、歯科医師会、薬剤師会、在宅療養後方支援病院、保健所、ケアマネ、介護サービス事業所、訪問看護ステーション	○ 在宅医療連携協議会の設置により、在宅医療・介護提供体制の構築に関する課題や、ICTについて具体的に検討することができた。	平成27年度以降の取組		○ 関係機関連絡会議については、平成27年度以降も引き続き開催していく。また、医師会が2市1町にまたいでいることも考慮し、清須市及び、豊山町にも会議に参加していただき、協力して地域包括ケアの推進に取り組んでいく。 ○ 在宅医療連携協議会についても、平成27年度以降も引き続き開催し、特に、ICTの導入については、デモケースの実施を通じて、課題等効果を検証した上、導入の検討をしていく予定である。また、2市1町でも北名古屋市のICTの取組について共有し、2市1町広域で進めていけるよう調整をしていく。 ○ その他、多職種連携研修会や、市民向け講演会等についても引き続き実施していく。	
	ICT等を活用した患者情報の共有	○在宅医療連携協議会で検討 ○4ヶ月間のデモを実施	○ 多職種連携研修会の開催を通じて、多職種の顔の見える関係は構築することができた。しかし、出席者が多職種であるため日程の調整が難しく、各関係者が優先して本研修会に参加していただけるように検討を進めるとともに、各関係者への意識づけを引き続き実施する。				
	在宅医療等に従事する多職種の研修	○多職種連携研修会 【開催数】：1回 （他、2月中に1回） 【対象者】：医師、薬剤師、歯科医師、歯科衛生士、訪問看護ステーション看護師等 ○研修会とワールドカフェを開催					